

電気と「はかる」計器の歴史を訪ねて……4

エジソンペーパプロジェクト

松本 栄寿
横河電機(株)

エジソンペーパプロジェクトは、アメリカでも例のない大規模な歴史的文書編集のプロジェクトである。エジソンは研究ノート、通信文、写真など、合わせて500万ページの書類を残した。その多くはウェストオレンジの貯蔵庫に死後50年以上も放置されたままであったが、その全容をまとめた計画である。

主催はスミソニアン協会、国立公園局、ニュージャージ歴史委員会、ラトガース大学の4機関で、1978年に発足した。本拠はラトガース大学で、委員長は同大の歴史家ジェンキンズ博士である。

エジソンのアイデア、設計ノートはスケッチや画が多いが、それらは3種の媒体として発行される。

- 1) 通信文、ノート、特許などの資料から30万ページ（全体の10%弱）をマイクロフィルムに撮影する。
- 2) 500万枚の資料の中から、15~20冊の注釈つき書籍を研究者対象にまとめる⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾。
- 3) 一般人を対象とした図解本、スライドなどを発行する。

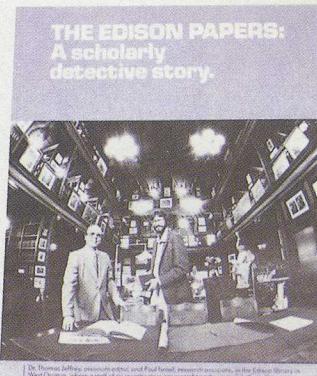
計画者の言によれば、現在にいたるまでエジソンについて書かれた著作は多いが、実際の文書を細かく調査した結果にもとづく重要な研究は

なかった。このプロジェクトが完成すれば、エジソンや技術史の研究者にとっても便宜は計り知れない。またアメリカの電機工業成立史の実像を明らかにすることによって、電機工業が社会の支持を得て今後さらに発展していくためにも役立つであろう。当初はマイクロフィルム化も5年以内と見込んだが、全体のまとめは21世紀になるようである。

費用は1980年、年間38万5,000ドルを15年間と見積もられた。それにはスタッフの給与、研究出費、出版費などが含まれている。計画では30%を連邦政府の基金から、40%を主催者からと見積もっており、約200万ドルを民間企業から寄付を募る考えであった。運営にはコカコーラ、GE、ウェスチングハウスなどが名を連ねている。基金協力の40社のリストに日本企業も見受けられるが、期間延長に伴って募金活動は長期に続けられよう。

スミソニアンは運営・基金以外にも、展示を通じてエジソンの周知に協力している。アメリカ歴史博物館のキュレータ、フィン博士が1994年に開設した「エジソンの40歳から」と名づけた写真展がある。約50枚の写真からなるが、40歳で新しく作っ

「40歳よりのエジソン」1994年の短期写真展示。スミソニアンのアメリカ歴史博物館



エジソンペーパプロジェクトの趣意書

たウェストオレンジ研究工場時代のエジソンと私生活が描かれている⁽⁴⁾。

このころからエジソンをとりまく環境は大きく変わった。新しく迎えた夫人はエジソンに、もっと家族と過ごすよう求めたし、有名人工士は社会との付き合いが多くなった。また1880年代の交流、無線など新たな電気技術は、進んだ学識・考えを必要とした。メンロパークの10倍規模のウェストオレンジは発明家よりマネージャを求めた。

この写真展は6か月の短期展示で、小さなスペースにも移動できる。フィン博士は「エジソンに関する事業や展示にはいつでも使えるし、貸し出しもできる」と宣言している。

注

- (1) エジソンペーパはマイクロフィルム版以外に、今まで計画の書籍20冊のうち3冊がJohns Hopkins Universityから発行された。各冊とも700~800ページである。The Papers of Thomas A. Edison, Vol. 1: The Making of an Inventor, February 1847~June 1873
- (2) Vol. 2: From Workshop to Laboratory, June 1873~March 1876
- (3) Vol. 3: Menlo Park: The Early Years, April 1876~December 1877
- (4) スミソニアンでの写真展示の紹介はBernad S. Finn: Thomas Alva Edison After Forty The Challenge of Success, USA Today (Magazine), July 1994